



ふき  
落のとう  
〜自然の恵み〜

家の前の山の土手に 友人が落味噌をつ  
は一面に落のとうが咲 くて、沢山出来たの  
いでいる。

先日、友人が何 あった。有り難い。た  
回も取りに来るが、一 きたてのご飯にこれを  
向に減らない。天ぷら まぶして食べるのが楽  
や落味噌をつくるとい しみである。

我が家でも3回天ぷらと笠戸島の国民宿舎で  
らにして食べた。落を 1時間半のバイキング  
取る場所や時期によつ を楽しんだ。色々な種  
て落の苦味が少し異な 類のものを食べたが、  
る。とにかく苦味が美 日本に古くから伝わる  
味しく、ついビールを 落のとうの苦味は、こ  
飲んでしまう。 れらに勝るとも劣らな



落の花が満開

い。妻がデ  
イ・サービ  
スのため、  
今回の昼食  
は「ミート  
ドリア」を  
食べる。

とにかく  
すべてが美  
味しく、そ  
れが簡単に  
作れるとい  
う便利な世  
の中になっ  
たものだ。

ここまで書いたとこ  
ろで東京に住む長女か  
ら「ふきのとう」とい  
う絵本が送られて来  
た。

絵本といえど知らな  
いことがのつている。  
(読みやすいように、  
ひらがなだけでなく、  
漢字に変換したものを  
紹介する)

「根っ子を掘り出し  
てみたら、黄色い花と  
白い花は別々の根っ子  
から咲いている。

黄色い花が咲いてい  
るのは牡(おす)の落。  
白い花が咲いているの  
は牝(めす)の落。

牡の落の仕事は粉を  
造って牝の落に渡すこ  
と。牝の落の仕事は牡  
の落に粉をもらって種  
を造ること。粉を渡し  
た牡の落は役目が終  
わって枯れてゆき、牝  
の落は種を育てる仕事  
を始める「人間の世界  
に似ている。

ふきのとう

甲斐信枝 さく 森田竜義 監修



ふきのとうの絵本

たこともなく、美味し  
謝である。

く落のとうの天ぷらを 朝、生ゴミを出した  
食べる。改めて自然の あと、山の土手を見る  
恵みに感謝する。 と、また落のとうが沢  
目を庭に転じると、 山出ている。妻にはま  
レンテンローズが咲き た天ぷらを作って貰お  
う。

競い、その間は沢山の 競い、その間は沢山の  
チューリップが芽を出 競い、その間は沢山の  
している。そのほか色 競い、その間は沢山の  
んな種類の水仙も群生 競い、その間は沢山の  
している。 競い、その間は沢山の

改めて、私たちはこ  
の自然の恵みの中に生  
きているのだ。神に感  
謝である。



咲き競うレンテンローズ